



茅ヶ崎市教育センター  
Chigasaki Educational Center

子どもたちのために  
ともに教育環境を考える  
教育センターの教育情報誌

# 学びあう響きあう

第16号  
令和2年4月発行

編集担当/茅ヶ崎市教育センター  
住所: 茅ヶ崎市十間坂三丁目5番37号  
☎ 研究研修担当 (市青少年会館3階)  
☎ 0467-86-9965  
☎ 青少年教育相談担当 (同館2階)  
☎ 0467-86-9963  
URL: <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kyouiku/1005049/index.html>

教育センターでは、「教育研究」・「教育研修」・「教育相談」の推進をしています。「教育研究」では、小・中学校の教育に関する様々な研究、幼児期の教育に関する基礎研究を行っています。「教育研修」では、研究成果を土台にした教職員の専門的な研修や市民の方々への家庭教育・幼児期の教育に関する講座などの機会を通して情報提供を行っています。また、長い歴史をもつ小学校中学校創意工夫・研究作品展も本教育センターが担当し、子どもたちの創意・研究心の育成に向けた取組を行っています。「教育相談」では、児童・生徒の様々な悩みに応え、自律性をはぐくむ支援ができるよう努めています。

## 【Contents】



- 幼児期の教育について研究から見えてきたこと(P.1~4)
- 令和元年度「乳幼児期の教育・家庭教育」講座・講演会のあしあと(P.5)
- 茅ヶ崎市小学校中学校創意工夫・研究作品展のお知らせ(P.6, 7)
- 一人で悩まないで相談しようー青少年教育相談室から(P.8)



## 幼児期の教育についての研究から見えてきたこと～10年目のあゆみ

### 「非認知能力」の大切さ

子どもの心身の健やかな発達を考えると、子育ての基本、基盤となる「アタッチメント」という考え方があります。そして、その中で大切にしている「非認知能力」があります。「非認知能力」とは、意志力、自尊心、自己肯定感、自己制御、粘り強さ、思いやりなどの心の力のことです。予測の難しい未来に向けて、この「非認知能力」を育てる教育がスタートしています。第16号では、目の前の子どもの姿から、子どもの心の育ちを支える大人の関わり方のヒントをもらえる講演内容をご紹介します。

#### □「自立に向かう第一歩～イヤイヤ期の子ども心に寄り添う～」より

青山学院大学教授 坂上裕子氏、乳幼児期の子育て・子育て講座、令和元年11月7日(木)

#### □「幼児期からはじまるアクティブラーニング～主体的に学ぶ子を育てる～」より

玉川大学教授 大豆生田啓友氏、茅ヶ崎市教育講演会、令和2年1月12日(日)

### 「自立に向かう第一歩～イヤイヤ期の子ども心に寄り添う」

第18回乳幼児期の  
子育て・子育て講座」より  
(講師 坂上裕子氏  
令和元年11月7日開催)



#### 「イヤイヤ期」って何？

##### ◇お子さんはどんな時に

##### 「イヤイヤ」をしますか？

最初に、お子さんはどんな時に「イヤイヤ」をするか思い浮かべてみてください。

- ・生理的な理由(眠い時、お腹が空いている時、疲れている時)
- ・お母さん、お父さんと離れるとき
- ・欲しいものが手に入らないとき
- ・やりたいことがすぐに叶わないとき
- ・子どもがやろうとしていたことに「ちょっと手伝おうか、こうしたらいいんじゃない」と言ったとき
- ・やりたくないことをやるように強いたとき(例えば歯磨き)

上の6つは、全部質的に違うものを取

えて混ぜました。下の4つに関しては自分なりの意欲とか意志が育っているからこその「イヤイヤ」です。

「イヤイヤ」は、生理的なものを除いて、1歳後半くらいから出てくるお子さんが多いと思います。2歳前くらいでピークになり、半年くらいかけて落ち着いていくというのがよくあるパターンです。子どもが鏡を見た時にそれが自分であることが分かる年齢というのがちょうど1歳半くらいです。つまり「わたし」というものの見え方が子どもの中で変わってくるのが1歳後半の時期なのです。「あなた」と「わたし」は違うという事を確認したり、「大好きなもの」が出てきたり、「自分のことは自分で決めたい、自分でやりたい」という思いが出てきたりします。

確かに「イヤ」と言ったり言うことを聞かなくなることが増えるのですが、自分から言うことを聞いてくれたり、できることも増えてきます。

大人から見ると、子どもが言うことを聞いてくれない、反抗する、「イヤイヤ」ばかり言っていると見えますが、子どもにとっては「自分はいきたい」「自分で選びたい」と自分の思いを伝えているだけです。しかし親は、子どもの安全や健康を守るため、日々生活していくために制止をしなければならぬ場面もあります。そこで色々な衝突が起こるのです。これを子どもから見ると、今までは「抱っこして」といえば抱っこしてくれたり、言うこと聞いてくれたりした親が、いきなり色々なことをダメと言うようになったり、させてくれなくなったりする。子どもからすれば、親が反抗期なんですね。双方の歩み寄りが必要ならば、反抗期は終わりません。

### ◇「イヤイヤ」の変化にみる「ジブンの育ち」

子どもの「イヤイヤ」の仕方は、子どもの月齢、発達とともに変わっていきます。今どの時期なのかということを知っておくと、かわりが上手いこともあります。

0歳終わりごろ、お父さんやお母さんの口に離乳食を入れようとする行動は、自分と向かい合う他者を意識するから出てきます。「心が育ってきたんだ」という目で見ただけだとよいかと思えます。

1歳前半くらいになると、何に対しても「イヤ」と言って、親の反応を見て楽しむようになります。歩けるようになって手が使えるようになると、いろいろなことをやってみようとしていますが、まだ上手にはできない。自分の「つもり」が形にならないと、大泣きをするようになる時期でもあります。

イヤイヤが一番のピークを迎える1歳後半は、「ジブン」に目覚める時期です。自分なりの「目的」や「つもり」を持って色々やってみたくなくて「ジブンデ！」「ジブンモ！」「ジブンノ！」が出てきます。

1-2歳は、出来ること、分かることが増えていくのが嬉しい時期です。大好きな人にそれを見て欲しいし、喜びを共有して欲しくもなります。でも、まだま

だ半人前で、分かっているようで分かっていなかったり、言葉で自分の思いを上手に伝えたりすることもできません。出来るが増えるとはいえ、能力的に出来ないこともたくさんあります。そのため、駄々をこねたり、癩癩を起こしたりすることが増えるのです。

それが2-3歳になると少しずつ、自分の思いを言葉で伝えられるようになり、自分の思いを認めてもらえたときには相手の思いを受け入れられるようになります。自分の気持ちを立て直すカも育ってきます。

「イヤイヤ」の最中にある子どもの心の中は、モヤモヤぐじゃぐじゃしていて、気持ちを切り替えるには時間がかかります。自分なりに気持ちを立て直すためには、ある程度の時間や「間」が必要です。大人がその時間を待ってあげられる余裕をもてるとよいですね。

### 大切な「自己主張」や「自己選択」

子育てのゴールは、「自立」と、「自律」だと思います。

「自立」は自分の身の回りのことができるようになることで、年齢によって求められることは違うと思います。

もう1つの「自律」は、自分でしたいこと、すべきことを自分で考えて選んで行動することです。これを車の運転に例えると、アクセルが「自己主張」、ブレーキが「自己抑制」、行く先を考え、選ぶことが「自己選択」にあたります。車を走らせるための燃料は、抱っこしてもらったり、安心できる場所で過ごしたりすることで補給されます。

この「自律」の育ちには、順番があります。すなわち、子どもはアクセルを踏むことを学んでから、ブレーキの掛け方を学んでいきます。ブレーキの掛け方を先に学んでしまうと、自分から行動を起こすことが難しくなりがちです。また練習をしないと運転は上手くなりません。上手に「自己主張」や「自己抑制」ができるようになるには、練習が必要です。

アクセルにあたるものは、「面白いな、楽しいな、やってみたいな」という感情や好奇心です。安心できる環境にいると外の世界に目が向き、いろんなことに挑戦したくなります。

ブレーキにあたるものは、考える力（理解する、見通しを持つ）、言葉を扱う力（他者に思いを伝えるための道具、自分の感情や行動をコントロールする道具）などです。

アクセルにあたる「やってみたい」という感情は生まれつき備わっているもので、ブレーキの部分は後からゆっくと育っていきます。両者の間にはタイムラグがあるために、思うようにならない時に癩癩を起こすなど、暴走してしまうことがあるのです。大切なのは、「アクセルの育ち」も大切にしながら「ブレーキの育ち」を支えていくことです。無理に「イヤイヤ」や癩癩を起させないようにすると、子どもがアクセルの踏み方、ブレーキの踏み方、ハンドルの扱い方を学ぶ機会が制限されてしまいます。「イヤイヤ」が出てきていること自体が、子どもが安心してアクセルを踏むことが出来ている、ということなのです。

### 「ブレーキの育ち」を支えるには

#### ◇思いを受け止める

外れてもよいので、子どもの思いを言葉にしてみましょう。自分の思いに合った言葉をかけてもらえたときには、子どもの反応が変わります。「これやりたかったのかな」とか「悲しかったね」とか「今怒っているの」などと声をかけてあげると、それをきっかけに気持ちが落ち着くことや、逆に、大きな声で泣き出すなど、表せなかった気持ちを表せたりすることもあります。

子どもにとって、目に見えない「気持ち」を理解するのは大変な作業です。「自分は今こういう気持ちなんだ」ということが分かって、子どもは安心して自分の感情に向き合うことができますし、そこから気持ちを切り替えることができます。とはいえ、親の側に余裕がない時には、子どもの気持ちに寄り添った言葉をかけるのは難しいと思います。普段から、子どもが嬉しい時や楽しい時などに「面白いよね」「嬉しいよね」「楽しいよね」と、気持ちを言葉にすることを一緒にやっていただけると、咄嗟の場面でも出てきやすくなると思います。

#### ◇行動の枠を示す

子どもの反応にかかわらず、大人

がダメと言わなければいけない場面は二つあります。一つは、自分の命、健康に害を与えること、もう一つは人に害を与えることです。ここから先はダメだよ、これはやってはいけないよ、という枠を大人がきちんと示してくれるからこそ、子どもは安心して行動できるのです。こうした、と思うことと、実際にそれを行動に移すことは、別のことです。「思い」は、自然に湧き上がってくるものなので、それを否定されると、自分が何を感じているのかが分からなくなってしまいます。こうした、というあなたの気持ちは分かるけれども、「これはしちゃダメ」なんだよ、と認められない「行動」を止めるのは、親の仕事です。子どもの「思い」を認めて受けとめることと、それを「行動」として認めることは、別のことなのです。

### ◇見通しを示す

子どもがアクセルを踏み続ける理由の1つは、先の見通しが持てないからです。物事のつながりが分かり、言葉の理解も進んでくる1歳後半から2歳くらいになると、大人が言葉で見通しを伝えてあげると、分かる場面が増えてきます。その時に大切なのは、具体的に、子どもにとって分かりやすいように伝える、ということです。たとえば、ただ「待ってね」と言われただけだと、いつまで待てばいいのか分からず、結局待てなかつたりします。でも、「10秒待って」と言われれば、10秒は待つことができます。「今は出来ないけれども、これをして、これをやった後でしよう」と言われれば、自分なりに見通しを持って我慢できるようになります。3歳くらいになると、親には親の意図や都合があることも分かってきますので、それを子どもに伝えてあげることも大切なことです。親の思いを知り、親の思いと自分の思いとの間で葛藤する経験を通して、子どもは折り合いをつけることを学んでいくのです。

### ◇言葉が育ってきたら、交渉してみる

「あなたはどうしたいの」「私はこうしたい、こうで困っているんだけど」というように、お互いの落としどころを探すべく、思いを言葉にしてみてください。自分の要求がほぼ全部通る時もあれば通らない時もあるし、五分五分で手を打とうか、ということもあるでしょう。色々な落と

しどころがある、ということを親子で探っていくことを通して、人と交渉するためのスキルが身についていきます。「イヤイヤ」の時期は、どうしても親子で対立する状況になりがちですが、困った状況の解決策を2人で考える、というスタンスに持っていかると、子どもと真正面からぶつからないで済むかもしれません。

### 「イヤイヤ」されると イライラするのはどうして？

「イヤイヤ」が繰り返されると、大人の側は物事がスムーズに進まないの、いらいらします。生活に余裕がない時は特にそうです。しかも、子どもの「イヤイヤ」はしつこいので、大人は子どもが「わざとやっている」と思いがちです。しかし、子どもがしつこくするのはわざとではなく、先の見通しが持てないからです。また、2歳頃になると、子どもは「ママ嫌い」「パパ嫌い」と言うようになります。初めてこの言葉を言われた親は、傷つきます。でも、子どもにしてみれば、思うようにならないことをどう伝えてよいか分からず、「ママ嫌い」「パパ嫌い」と言っているだけなのです。本当にママやパパが嫌いなわけではないので、安心して下さい。

子どものイヤイヤに対してすぐイライラしてしまう場合、次の中に当てはまるものがあるかどうかを考えてみていただくと、解決の糸口が見えるかもしれません。

### ◇一人で頑張り過ぎていないですか？

大人にも、休む時間や1人の時間が必要です。遠慮なく休みましょう。体と心が悲鳴をあげているのに、無理をして頑張り通す必要はありません。

### ◇子どもへの要求が 高過ぎないでしょうか？

子どもに要求していることが多すぎたりとか難しすぎたりする場合があります。この年齢の子ってどんな感じなのかを、周りに聞いてみるとよいでしょう。

### ◇自分への要求が 高過ぎないでしょうか？

親である自分がきちんとしないと、いつも思っていると、苦しくなってしまう

がちです。要求を下げられるところや手抜きが出来るところがないか、見直してみてもよいかもしれません。

### ◇子どもにイライラしているのではなく、周りの目を気にしてイライラしているのでは？

### 「イヤイヤ期」は、 親にとっても成長の時期

子どもの「イヤイヤ」は、子どもが成長しているからこそ、出てくる姿です。「イヤイヤ」が見られるようになったら、それは、「自分への見方や関わり方を今までとはちょっと変えてください、微調整してください」という子どもからのサインです。

「イヤイヤ」の仕方は子どもの成長とともに変わりますし、イヤイヤの時期は、この後も繰り返しやって来ます。今日は1歳から3歳頃の時期の「イヤイヤ」のお話をしましたが、この時期に一度練習をしていると、この後、またイヤイヤが出てきても、「またか」と少し気持ちを楽にもって関わるすることができます。子どもは親に、段階を踏んで練習させてくれているのです。

親子がぶつかり合うことは、悪いことではありません。ぶつかり合うことで、親も子どもも、互いの気持ちを理解し、相手は自分とは違う思いを持つ人なんだ、ということを理解していきます。また、ぶつかったときには、仲直りをすればよいのです。仲直りも、大切な対人スキルの1つです。正面からぶつかれるのは、お互いに信頼関係があるからこそ、親も子どものことを信じてあげてください。

子どもの成長の過程では大変なこともあります。その時期ならではの可愛さや、一緒にできる楽しいことも沢山あります。大変さの部分だけではなく、一緒に楽しめることにも目を向けて、色々な方の手と目を借りながら、子育てをしていただければと思います。

## 「幼児期からはじまるアクティブラーニングー主体的に学ぶ子を育てる」

令和元年度開催  
「茅ヶ崎市教育講演会」より  
(講師 大豆生田啓友氏  
令和2年1月12日開催)



### 『多くのママ達は、本当によくやっています』

今の時代、決して子育てが簡単な時代ではありません。多くのママ達は、本当によくやっています。昔、子育てはお母さん一人でやっていってませんでした。子どもは自然や異年齢や地域の人ともかかわりながら、たくさんの主体的な活動の中で育っていました。今は、それがなくなってしまったのです。すごく難しい中でやっているのでも、もし「子育てが大変だな」「イライラすることがあるな」と思ったら、それは、おそらく頑張っているからこそ感じるのです。そう感じたときは、「私は結構頑張っている。」と思ってください。子育て中ではない方は、多くの頑張っているママ達をぜひ支えてあげてください。今の時代これがとても大事なことの一つです。

### 「遊び込む」姿に見るアクティブラーニング～「主体的・対話的で深い学び」・「プレイフル・ラーニング」～

今の子どもが育つ環境には、昔はあった環境がなくなりました。なので、幼稚園や保育園の役割は、以前より大事になります。「家庭だけではなく、社会全体で子どもを育てましょう。」というのが、子育ての新制度として、今この国が目指している方向です。そしてこれからは、すべての教育で「主体的で対話的で深い学び」を、という時代です。

「子どもたちが主体的に学ぶ(＝アクティブラーニング)」ということです。そして、今、遊びがすごく大事だということが言われています。

自分たちが主体的に選んで「遊び込む」こと。それは、学び仕立ての遊び(プレイフル・ラーニング)なのだ、という考え方です。「遊び込む」ことが大事というのは、のびのびしてるから、ということではありません。群れて「遊び込む」ことを大事にしている園の子どもは、明らかに思いやりが育ち、知的な関心や他者との人間関係が育っています。園がどれほど工夫しているかということです。

経済学の研究でも、子ども主体の遊びを大事にした幼児期の教育や保育を受けた子たちは、そうでない子たちと比べて、大人になった時に経済力、そして幸福度が高い、と言われているので、夢中になって遊ぶ保育、一人一人の子が大事にされる保育をどこでも保証しましょう、と言っているわけです。

### 大切な力「非認知能力」

乳幼児期は、「非認知能力(＝意志力、自尊心、自己制御、粘り強さ、思いやり等)」がちゃんと育っていることが大事です。させられることばかりが多いとこの力は育ちません。

自分から何かに夢中になってやることには、困難が伴います。でも遊びのように興味関心があることは、うまくいなくても乗り越えるんです。これがやり抜く力、生涯重要になる「生きていく力」の根幹になるといわれています。

この力は「社会情動スキル」「21世紀型スキル」といいます。21世紀はAIの時代。今までと同じような暗記してやるだけの教育では立ち行きません。人だからこそできる、うまくコミュニケーションをとったり、うまくいなくても試行錯誤したりできることが大事な力になってきます。

### 「学びに向かう力」が育つ環境

～小学校のスタートカリキュラム～

2020年4月、小学校で新しい指導要領がスタートします。どこの小学校でも、「主体的・対話的で深い学び」が本格的にスタートし、1年生でスタートカリキュラムが始まります。子どもたちの主

体性を大事にしながら、幼児期で育ててきた「遊びを通した学び」を受けて、遊びの中から学びをスタートしていきます。

### 『ぐりとぐらがあつて本当に良かった！』～絵本の「読み聞かせ」・ごっこ遊び・ファンタジーの世界・愛された記憶～

「絵本の読み聞かせ(＝読んでもらうこと)」が極めて重要です。子ども主体の遊びの保育や、みんなで話し合う経験や絵本の読み聞かせというのは、語彙力の基盤になるということが分かっています。

小さいころに「ぐりとぐら」を読んでもらったことがあるか、という調査を大学生にしたら、9割は「ある」と答えました。覚えているんです。さらに、ほとんどの学生がこの絵本に関するエピソードを書いています。実体験も伴っているのです。そして、共通しているのはそれが幸せな記憶ということ。小さなときに絵本を読んでもらった記憶は「愛された記憶」です。愛されたという実感は、後々まで残っていくと言われています。小さな頃が幸せの記憶に残っているということは、その後も影響を与える重要なことです。

ごっこ遊びも絵本も児童文学もファンタジー(＝空想の世界)です。これを持っていることは、つらいことがあっても現実を乗り越える力、生きていく力になります。

### 子どもも大人も自分らしく

これから、子どもたちの笑顔が絶えないようにするために、子どもの主体性を大事にする教育がどこでも保証されることが必要です。そのために一番大事なのは、その子らしさが大切にされること。そして大人も「いい子育てをしよう」「いいお母さんになろう」ということよりも、「機嫌のよいこと」が大事です。ある精神医学の研究者は、「まあまあのお母さんが大事」といっています。あんまりいいお母さんになろうと頑張らなくていいのかもしれない。大人も自分らしく見えることの方が、子どもにもプラスなのかもしれない。「わたしも自分らしく生きていけるだろうか」「自分らしく子どもの前になるだろうか」ということが意外と重要なのかもかもしれません。

# 令和元年度「幼児期の教育・家庭教育」講座・講演会のあしあと

## I. 会場が市役所付近の講座等(日付順)

名称	開催日・会場	講師(所属/専門分野)・内容等
第17回乳幼児期の 子育て・子育て講座	6月 4日(火) 本庁舎4階会議室	講師 <small>おかもとよりこ</small> 岡本依子(立正大学教授/発達心理学、親子コミュニケーション発達等) 「乳幼児期のコミュニケーションー赤ちゃんの声を語ろうー」
響きあい 教育セミナー	7月26日(金) 青少年会館ホール	講師 <small>ひらいみか</small> 平井美佳氏(横浜市立大学准教授/臨床心理学・発達心理学) 「他者との関わりの中で心を育てるー幼児期から思春期の心の発達ー」
第9回 響きあい教育 シンポジウム	8月 5日(月) 分庁舎 コミュニティホール	講師 <small>えんどうしひこ</small> 遠藤利彦氏(東京大学大学院教授/発達心理学、感情心理学) <small>よしかわれいこ</small> 芳川玲子氏(東海大学教授/臨床心理学、医学博士) 「子ども同士の関わりの中で育まれる力とはー乳幼児期から思春期を支える大人の役割ー」
第18回乳幼児期の 子育て・子育て講座	11月 7日(木) 本庁舎4階会議室	講師 <small>さかがみひろこ</small> 坂上裕子氏(青山学院大学准教授/生涯発達心理学・臨床発達心理) 「自立へ向かう第一歩ーイヤイヤ期の子どもの心に寄り添うー」
令和元年度 幼児教育研修会	12月 6日(金) 本庁舎4階会議室	講師 <small>えんどうしひこ</small> 遠藤利彦氏(東京大学大学院教授/発達心理学、感情心理学) 「幸せの土台となる非認知の心ー幼児期から児童期の心の発達ー」
茅ヶ崎市 教育講演会	1月12日(日) 分庁舎コミュニティホール	講師 <small>おなまめうだひるとも</small> 大豆生田啓友氏(玉川大学教授/乳幼児教育学・保育学・子育て支援) 「幼児期からはじまるアクティブラーニングー主体的に学び子を育てる教育ー」

## II. 市立保育園を会場とした「乳幼児期の子育て・子育て出前講座」

名称	開催日	講師(所属/専門分野)・内容等
市立 鶴が台保育園	5月25日(土)	講師 <small>そのだなつみ</small> 園田菜摘氏(横浜国立大学教授/乳幼児心理学) 「子育てのよろこびと不安ーほどほどの子育ての大切さー」
市立 香川保育園	6月22日(土)	講師 <small>だんなおこ</small> 巨直子氏(帝京科学大学准教授/発達心理学・乳幼児期の認知発達) 「よりよいメディアとの付き合い方ー乳幼児期の子育ての環境を考えるー」
市立 小和田保育園	7月13日(土)	講師 <small>すながみき</small> 須永美紀氏(こども教育宝仙大学教授/保育学、幼児教育学) 「育ちを見守るまなざしー子どもの体験を支えるー」
市立 室田保育園	10月26日(土)	講師 <small>さくまみちこ</small> 佐久間路子氏(白梅学園大学教授/発達心理学) 「子どもの心に『わたし』が育つときー育ちを支える大人の関わりー」
市立 浜須賀保育園	11月16日(土)	講師 <small>すがのゆきえ</small> 菅野幸恵氏(青山学院女子短期大学教授/発達心理学) 「子どもの育つ力を信じるためにー見守る大人にできることー」
市立 浜見平保育園	2月15日(土)	講師 <small>だんなおこ</small> 巨直子氏(帝京科学大学准教授/発達心理学・乳幼児期の認知発達) 「よりよいメディアとの付き合い方ー乳幼児期の子育ての環境を考えるー」

## III. 小学校区青少年育成推進協議会との共催による「子育て・子育て出前講座」

共催推進協議会	開催日・会場	講師(所属/専門分野)・内容等
室田小学校区 青少年育成推進会議	10月 6日(日) 松林公民館	【思春期編】 講師 <small>きたしまあゆみ</small> 北島歩美氏(日本女子大学カウンセリングセンター専任研究員) 「心を育てるコミュニケーションー学童期から思春期の変化を支えるためにー」
東海岸小学校区 青少年育成推進会議	11月10日(日) うみかぜテラス	【思春期編】 講師 <small>たにいしげひさ</small> 谷井茂久氏(元茅ヶ崎市教育委員会教育長) 「思春期の子どもにはいったい何が起きているのかー思春期の意味と思春期の子どもへの接し方ー」
柳島小学校区 青少年育成推進会議	2月 2日(日) コミュニティ センター湘南	【親育ち編】 講師 <small>ちか</small> ヴィヒャルト千佳こ氏(鶴が峰心理グループ代表責任者/臨床心理士) 「子どもの健やかな成長のために大人は何ができるか」